

米づくり情報（NO. 2）

令和8年7月17日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
6	3	21.9	22.1	26.5	28.1	18.2	16.7	48.2	0.0	22.1	38.2
	4	22.4	24.8	26.8	29.0	19.0	21.6	67.9	33.0	19.6	8.7
	5	23.1	22.0	27.1	24.2	20.0	20.3	85.9	313.0	16.0	5.7
	6	24.0	22.1	27.7	26.0	21.1	19.1	95.6	79.5	14.1	26.4
7	1	24.8	24.2	28.4	27.9	22.0	21.3	97.6	288.0	15.6	4.0
	2	25.5	27.9	29.2	32.0	22.6	24.8	84.3	16.0	19.2	38.8
	3	26.1	29.5	30.0	33.9	23.1	26.0	59.0	0.0	23.5	42.7

【7月1半旬～7月3半旬の気象概況】

- ・気温：平年より高く、特に7月7日から猛暑傾向。
- ・降水量：7月4日、5日に大雨があったが、それ以降、晴天。
- ・日照時間：7月7日から晴天が続き、多く推移。
- ・7月8日に梅雨明けした。

2 生育状況（7月16日）

項目 品種(設置場所)	移植 日	年 次	草 丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉 齢 (L)	葉 色 SPAD	概 要
夢しずく 東山代町脇野	5/30	本年値 平年値 平年比(差)	70.4 80.3 88	470 391 120	10.7 11.3 (-0.6)	40.5 40.7 (-0.2)	・草丈は、平年より低い ・茎数は、平年より多い ・葉齢はやや遅れている。 ・葉色は平年よりやや淡い。
ひなたまる 松浦町桃川	6/19	本年値	40.7	398	9.3	42.2	※前年と栽培条件が異なるため、前年値なし。

（耕種概要）

品 種	年 次	苗 質		移植日	栽植密度 (株/㎡)	備考
		苗丈	葉令			
夢しずく	本年値	15.3	2.5	5/30	18.2	前作 水稻
	平年値	14.6	2.5	5/31	18.2	前作 水稻
ひなたまる	本年値	13.0	2.3	6/29	18.5	前作 大麦

※平年値は、H27～R6の平均値から最上位と最下位の数値を除いた平均値。

3 参考（平坦部 佐賀県農業試験研究センター）（7月16日）

移植日	項目 品種	年次	草丈 cm	茎数 本/m ²	葉齢 L	葉色 SPAD	概況 (平年または前年との比較)
6月18日	夢しずく	本年	37.7	337	9.0	37.6	[気象] 7月9日～15日まで ◆平均気温…3.8℃高い ◆日照時間…長い (平年比 217%) ◆降水量…少ない (平年比 2%) [生育] ◆草丈 全品種で低い。 ◆茎数 全品種で多い。 ◆葉齢 「ひなたまる」は少なく、「夢しずく」は平年並み、「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」はやや多い。 ◆葉色(SPAD 値) 「夢しずく」、「ひなたまる」はやや淡く、「ヒノヒカリ」、「さがびより」、「ヒヨクモチ」は平年並み。
		平年	45.3	318	9.0	38.2	
		平年比(差)	83	106	(±0)	(-0.6)	
	ヒノヒカリ	本年	35.7	497	9.3	39.8	
		平年	38.8	429	9.1	40.4	
		平年比(差)	92	116	(+0.2)	(-0.6)	
ひなたまる	本年	38.4	461	9.3	44.0		
	平年	47.6	362	9.8	44.4		
	平年比(差)	81	127	(-0.5)	(-0.4)		
6月19日	さがびより	本年	34.9	410	9.2	40.6	
		平年	39.1	325	9.0	41.0	
		平年比(差)	89	126	(+0.2)	(-0.4)	
	ヒヨクモチ	本年	32.6	756	9.7	41.4	
		平年	36.0	566	9.5	41.7	
		平年比(差)	91	134	(+0.2)	(-0.3)	
留意点	○7月8日の梅雨明け以降、高温多日照で推移したため、分げつが促進され各品種とも茎数が増加した。						
	○必要な茎数が確保された品種は、中干しを実施する。「夢しずく」は7月下旬頃に幼穂形成期となるため、それまでに中干しを終了する。						
	○生育量が例年に至っていない、茎数が少ない圃場は浅水・間断灌水管理により、できるだけ茎数の確保に努める。その際の中干しは時期を遅らせ、やや軽めにとどめる。						
	○トビイロウンカ及びコブノメイガの発生に注意し、適期防除に備える。						
	●病害虫に関する情報は以下のリンク(農業技術防除センター病害虫防除部)より確認ください。 https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html						

注1)「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」は、6月18日移植の稚苗(播種期 5/26、播種量 湿籾 180g/箱)
 「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月19日移植の稚苗(播種期 5/27 播種量 湿籾 180g/箱)

- 2) 栽植密度: 「夢しずく」は、条間 30 cm × 株間 17 cm, 19.6 株/m²(65 株/坪)
 「ひなたまる」は、条間 30 cm × 株間 18 cm, 18.5 株/m²(60 株/坪)
 「さがびより」は、条間 30 cm × 株間 20 cm, 16.7 株/m²(55 株/坪)
 「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間 30 cm × 株間 15 cm, 22.2 株/m²(73 株/坪)

3) 栽培管理: 施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。

4) 平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差(σ)を算出し、±1σの外側にある年次を除く年

今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上中旬移植）

- ・幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参考に穂肥診断を実施し、適切に穂肥を施用する。

《夢しすく 穂肥診断基準》

幼穂形成始期の 草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg／10a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22～20日前	1 mm	3.0	18 kg
73cm以下	3.0～3.5	38以下	20～18日前	2 mm	3.0	18 kg
	3.5～3.8	38～39	15～14日前	10～15mm	1.5～2.0	10～12kg
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73～79cm	3.0～3.5	34以下	20～18日前	2 mm	1.5～2.0	10～12kg
	3.5～3.8	38～39	15～14日前	10～15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原 則 と し て 施 用 し な い					

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ⑤穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない

2) 普通期水稻「夢しすく」

- ・有効茎数（1 株あたり 20 本程度）が確保できた圃場から、順次中干しへ移行する。
- ・藻類や表層剥離が多く見られる圃場では、一時的に落水し（黒乾状態を保つ）、藻類等を土壤表面に吸着させた後、再度入水することで対処する。
- ・ガス対策として、移植後 15 日目および 25 日目頃に夜間落水（夜干し）などを実施し、根の活力を高める。ただし、用水の確保が困難な地域では落水を避け、湛水状態を維持する。
- ・中干しはおおむね 1 週間程度とし、土壤表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度を目安とする。
- ・中干し後は間断灌水に移行する。なお、中干しを強めに行った圃場（手が入るほどの亀裂がある場合）では、一度通水して土壤をならした後、間断灌水に移行する。・除草剤散布直後大雨によりオーバーフローしたほ場では、ヒエ、コナギやホタルイ等の雑草が発生する恐れがある。発生が多い場所では、中後期除草剤等による防除を実施する。



参考）茎数の目安

3) 普通期水稻「ひなたまる」等

- 分けつ期を迎えている。除草剤処理後 1 週間経過した圃場は浅水管理に移行し、莖数確保に努める。
- 有効茎（莖数が 1 株 20 本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- ガスわき対策として移植後 15 日、25 日頃は落水などを行い、根の活力を高める。ただし、用水確保が難しい地域では、落水せずに湛水状態を保つようにする。
- 梅雨明けし、高温と乾燥が予想される。深い亀裂が入り、土壌が白乾するほどの強い中干しは、断根につながるため、中干しの強度は、軽く足跡がつく程度の黒乾燥状態を保つ程度とする。（用水の確保が難しい地域は、自然落水とし、水尻は完全に落とさないようにする。）
- 移植後の大雨等でオーバーフローにより除草剤処理後の水管理が徹底できなかった圃場で、雑草の発生が見られる場合は、速やかに中後期除草剤による防除を実施する。

※除草剤は、散布後 3 日経過すれば有効成分が土壌に吸着されるが、除草剤の処理層が破壊されないよう湛水状態（水尻を止水して湛水状態を保ち自然落水によって田面が見えても 1 週間は入水しない。）を保つようにする。ただし、均平が取れず田面が露出した部分がある場合は、1 週間後の雑草発生状態を確認し、早めに中後期剤等での防除を行う。



田面が露出し、ヒエが生えてきた圃場

4) 共通

(スクミリンゴガイ)

・スクミリンゴガイの被害が見られる圃場では、浅水管理にすると共に、必要に応じスクミノン、スクミンバイト 3 などで薬剤防除を実施する。



スクミリンゴガイの食害

(いもち病)

BLASTAM情報第3号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2026年7月13日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	●	●	—	●	●	—	—	—	—	●
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	●	—	—	—	●	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	●	●	—	—	●	●	—	—	●	●
	10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	21日	—	●	—	—	—	—	2	2	—	—
	22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23日	●	4	—	—	●	●	●	●	●	—
	24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	26日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
	27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	?
7月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	●	—	—	●	—	—	●
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	—	—	●	3	—	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	?
	10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

- 1：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満）
2：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上）
3：準好適条件（湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外）
4：準好適条件（湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い）
●：好適条件（湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した）
—：好適条件の出現なし
?：判定不能

・6/21に感染好適条件、6/23に準感染好適条件が出現している。

- ・今後は圃場の発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、「オリブライト 250G」（出穂 10 日前まで）で速やかに防除を行う。
- ・圃場内に放置されている補植苗では「いもち病」や「ごま葉枯病」の発生が懸念されるため、補植後はすみやかに除去する。

(ウンカ類)

表1 ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況(2026年)

月	日	トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ						
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県						長崎県
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	フェロモン トラップA	フェロモン トラップB	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	フェロモン トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラ ップ(20W蛍 光灯)	フェロモン トラップ
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	2日	0	欠測	0	0	0	欠測	0	0			0			0	0
	3日	欠測	1	0	0	欠測	0	0	0							0
	4日	0	0	0	0	0	17	0	1	0						0
	5日	0	0		0	0	0	0	1						0	1
	6日	0	1	0	0	0	1	1	0			0				0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0							1
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0			0			0	1
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0							0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0							1
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0							0
	16日	0	0	0	0	0	1	0	0			0			0	0
	17日	0	1	0	0	0	1	0	0							0
	18日	0	4	0	0	0	4	0	0							0
	19日	0	0	0	0	0	1	0	1			0			5	6
	20日	0	8	0	0	0	4	0	0							44
	21日	0	0	0	0	0	0	0	1							8
	22日	0	0	0	0	0	1	0	0							12
	23日	0	0	0	0	0	2	0	0			0	2		22	6
	24日	0	0	0	0	0	29	4	0							11
	25日	0	0	0	0	0	47	0	0							1
	26日	0	1	0	0	0	106	4	0							0
	27日	0	1	0	0	0	11	0	0			0	1	0	10	1
	28日	0	0	0	0	0	4	0	1							0
	29日	0	0	0	0	0	1	0	0	0						0
	30日	0	0	0	0	0	3	1	0	0		0	3	0	1	0
7月	1日	0	12	0	0	0	7	5	2	0	0					0
	2日	0	11	0	0	0	7		0	0	0					0
	3日	0	2		0	0	8		0	0	0	0				0
	4日	0	22		0	0	46		0	0	0			0	4	0
	5日	1	3		0	2	32		0							0
	6日	0	99			2	111			0	0					
	7日									0	0					
	8日									1	0					

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。6月2日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。

※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

- ・セジロウンカとトビイロウンカは6月17日～6日に飛来が確認されている。
- ・今後の飛来状況や圃場条件(移植時期や品種、圃場の場所等)によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し、発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

トビイロウンカ防除適期

1回目 8/20~8/24

2回目 9/18~9/24

コブノメイガ防除適期

1回目 8/8~8/22

2回目 9/11~9/26

【普通期水稻の場合】

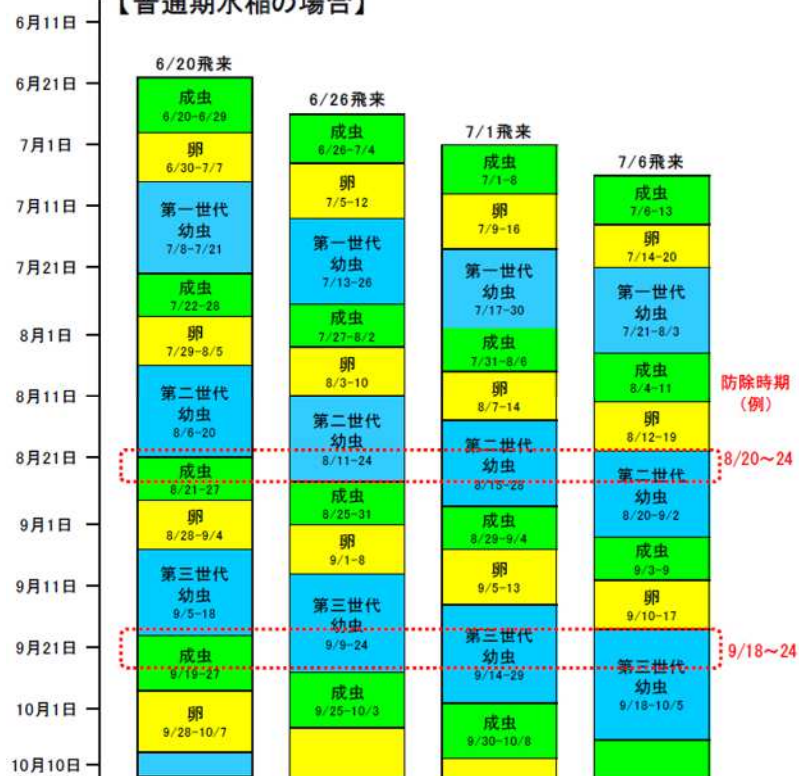


図2 普通期水稻でのトビイロウンカ各世代の発生予測 (第1版、2026年7月8日作成)



図3 コブノメイガ各世代の発生予測 (第1版、2026年7月8日作成)

（カメムシ類）

- 県では、早期水稻を対象に令和8年6月22日に斑点米カメムシに対する注意報を発令した（令和8年6月22日付け佐農技防第281号）。
- 圃場周辺の畦畔、休耕田、空き地等の雑草は斑点米カメムシ類の増殖・飛来源となるため、**除草作業を出穂10日前までに行う**。出穂直前以降の除草は水田内への斑点米カメムシ類の侵入を助長するため避ける。
- 薬剤防除は乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に行うが、発生が多い圃場では穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の7～10日後）の2回薬剤防除を行う。

【佐賀県農業技術防除センターの調査結果（注意報より一部抜粋）】

表1 イネ科雑草における斑点米カメムシ類のすくい取り調査結果（6月後半調査）

	クモリ カメムシ	ミミオ カメムシ	ホリハリ カメムシ	アカシ カメムシ	シホシ カメムシ類	イ カメムシ
本年（R8）	72.5	9.2	4.0	46.4	0.5	0.1
平年比	多	多	多	並	並	並
平年	1.7	0.1	1.2	35.3	0.5	0.0
前年（R7）	0.4	0.1	1.7	14.6	0.1	0

注）表中の数値は、すくい取り調査（捕虫網20回振り）における地点当たりの平均捕獲虫数。
平年値は過去10年（H28～R7）の平均値。

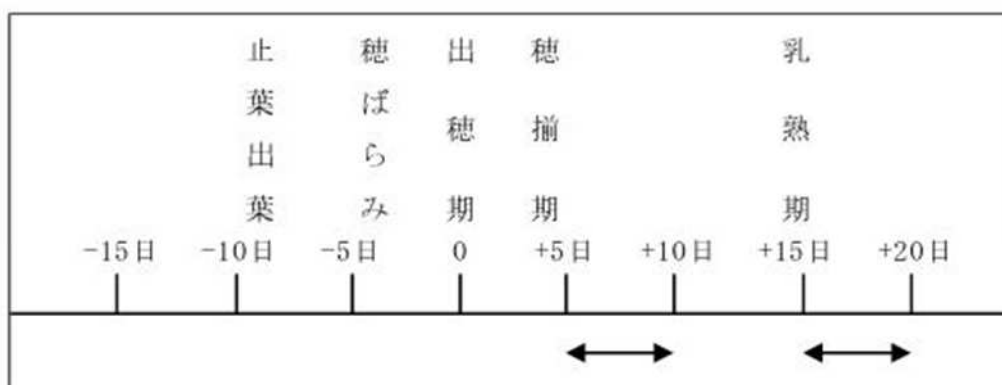


図1 斑点米カメムシ類の防除適期

令和8年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

